

高2 東大世界史



1章 東西世界を結ぶ「道」

問題

解答

- 問1 ⑤ 問2 ① 問3 ⑤ 問4 ③ 問5 ③ 問6 ① 問7 ④
問8 ③ 問9 ⑤ 問10 ⑤

解説

問1・2. 空欄A・Bに入る単語をただ暗記しても意味はない。当然ながら地図上で位置を確認しておくこと。

問3. スキタイは南ロシアで広く活動し、黒海北岸のギリシア人植民都市とも交流した。スキタイ文化として巧みな金細工や動物文様の馬具などが有名である。

問4. この形式の貿易を絹馬貿易という。中国側からは絹織物・綿織物・茶などが、北方遊牧民側からは馬・羊・ラクダなどが交易された。

問5. 拓跋氏の建国した北魏については、太武帝と孝文帝の区別を意識すること。太武帝の時代に北魏は華北を統一した(439)。またこの皇帝は道教を保護して仏教を弾圧した。孝文帝は均田制や三長制を実施し、平城から洛陽への遷都・胡服や胡語の禁止などの漢化政策を行った。

問6. 河西4郡の名称をすべて暗記する必要はないが、その内に一番西に位置する敦煌郡の位置は地図で確認しておくべきである。武帝が設置した郡としては、他に南越を滅ぼして中国南方に設置した9郡や、衛氏朝鮮を滅ぼして朝鮮に設置した4郡がある。南方では南海郡(現在の広州付近に設置)・交趾郡(現在のハノイ付近に設置)・日南郡(現在のフエ付近に設置され、中国支配地の最南端)を覚えておくこと。朝鮮の4郡については楽浪郡は必須であるが、他の3つ(玄菟郡・真番郡・臨屯郡)も確認しておいてほしい。

問7. ギリシア人によって書かれたインド洋の季節風を用いた交易についての記録として『エリュトゥラー海案内記』が残されている。

問8. 扶南はクメール人またはマレー人が建設した東南アジア初の本格的な国家とされるもの。オケオ港の遺跡からは大量のローマ金貨が出土したことから、ローマとの交易が存在した物的証拠となっている。

問9. マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝のことは中国史書(『後漢書』)では「大秦王安敦」と表記している。日南郡については、問6の解説文を参照してほしい。

問10. 市舶司が最初に設置されたのは、唐朝時代の玄宗皇帝時代(8世紀中期)のことであり、場所は広州であった。宋時代には海上交易が活発化したことを受けて、他の港町にも設置されていった。また港町には外国人居留地である蕃坊も作られた。

MEMO

2章 内陸アジア世界の発展

問題

解答

- 1 - え 2 - ち 3 - に 4 - あ 5 - ほ 6 - ま 7 - せ 8 - そ
9 - か 10 - う 11 - み 12 - つ 13 - け 14 - さ 15 - と

解説

1. 諸部族を1206年に統一したテムジンは、この年クリルタイ（部族長会議）でハンに認められた。

2. オゴタイ＝ハン時代の1234年に金を滅ぼし華北を征服し、フビライ＝ハンが建国した元朝が1279年に南宋を滅ぼして江南を征服した。

3. 高麗は10世紀初めに王建が建国した国で都は開城に置かれた。この国は世界初の金属活字を発明したことで有名である。またモンゴル人の侵入を仏の御心にすぎること避けるべく、『大藏経』の印刷を木版で行った。

4. ホラズム朝はイスラーム国家で、一時は大国として発展するが、チンギス＝ハンの攻撃で滅ぼされ、モンゴル軍は西トルキスタンを支配下に置いた。

5. モンケ＝ハンの命令で西アジアへ遠征したフラグは、1258年にバグダードを攻撃して、当時すでに有名無実であったアッバース朝を完全に滅ぼした。

6. 牌符とは公用で旅をする旅行者が携帯した通行証明証である。その者の身分によって金・銀・銅・鉄・木の牌が使用された。

7. モンゴル帝国・元朝時代にヨーロッパから来訪したフランチェスコ会修道士の3人を区別すること。フランス王ルイ9世が派遣したのがルブルック。ローマ教皇により派遣された人物としてプラノ＝カルピニとモンテ＝コルヴィノがいるが、前者はカラコルムを、後者は大都を訪れている。またモンテ＝コルヴィノは中国で初めてカトリックを布教した人物としても有名である。

8. モンゴル帝国初代はチンギス＝ハン、2代はオゴタイ＝ハン、3代はグユク＝ハン、4代がモンケ＝ハンである（モンケを3代目と勘違いしている者が多いので注意）。

9. 大都とは現在の北京である。モンゴル帝国の都は外モンゴルのカラコルムに置かれたが、中国本土に建国された元朝は大都に都を置いた。

10. 元朝時代には西アジアとの海上交易が盛んで、大都は通恵河という運河を通じて海につながった。つまり大都はインド洋とつながった内陸都市であった。

11・12. 『世界の記述（東方見聞録）』を著わしたマルコ＝ポーロは、その書の中で泉州（ザイトン）を「世界最大の2つの港のうちの1つ」とし、その繁栄ぶりを伝えている。

13. イル＝ハン国は第7代のガザン＝ハンの時代にイスラーム教を国教とした。

14. プラノ＝カルピニは陸路でカラコルムに至り，グユク＝ハンに親書を渡して1247年に帰国した。モンテ＝コルヴィノはイル＝ハン国を経て海路で大都に至り，大都で病没した。

15. イブン＝バットゥータは『三大陸周遊記』を著した人物。彼が訪れた主要な国としては，西アフリカのマリ王国，インドのデリー＝スルタン朝（のトゥグルク朝），中国の元朝がある。

3章 古代地中海世界

問題

解答

- A－ミケーネ　B－ビザンティオン　C－アケメネス　D－前4世紀
E－プトレマイオス　F－アレクサンドリア　G－カルタゴ　H－コンスタンティヌス
I－ユスティニアヌス　J－エジプト　K－カロリング　L－クレルモン
M・N－ヴェネツィア・ジェノヴァ　O－ヒューマニズム（人文主義）　P－インド洋
(1) ヒッタイト　(2) フェニキア人　(3) 穀物（小麦）　(4) ギリシア語（コイナー）
(5) コルドバ・トレドなど　(6) ラテン帝国　(7) 香辛料

解説

- A. エーゲ文明は前期をクレタ文明，後期をミケーネ文明と呼ぶ。
- B. ビザンティオンは4世紀にコンスタンティヌス帝が遷都してコンスタンティノープルと呼ばれ，15世紀からはオスマン帝国の都としてイスタンブルと呼ばれる。
- C. ペルシア戦争（前500～前449）はアケメネス朝ペルシアのダレイオス1世時代に開戦した。
- D. アレクサンドロス大王の東方遠征開始は前334年。
- E・F. アレクサンドロス大王の部下であるプトレマイオスが築いた王朝の都アレクサンドリアはヘレニズム文化の中心地で，自然科学研究機関のムセイオンが設置された。
- G. フェニキア人のティルス市の植民都市として北アフリカのチュニジアの地に建設された。
- H. コンスタンティヌス帝はミラノ勅令（313）でキリスト教の信仰を公認した。さらにニケーア公会議（325）を開催した人物でもある。
- I. ユスティニアヌス帝は北アフリカのヴァンダル王国とイタリア半島の東ゴート王国を滅ぼし，帝国領土を西地中海域まで拡大し，一時は地中海世界の再統一を実現した。
- J. 東ローマ帝国は7世紀のヘラクレイオス1世時代にシリアとエジプトをイスラーム勢力に奪われた。
- K. 空欄直前に「8世紀後半までに」とあるので751年に成立したカロリング朝が答えとなる。
- L. 教皇ウルバヌス2世が1095年に南フランスのクレルモンに招集した公会議。
- M・N. ヴェネツィアはアドリア海湾奥に位置する都市で，第4回十字軍の中心となった。ジェノヴァはイタリア半島北西に位置する都市。ともにレヴァント（東方）貿易で繁栄した。
- O. ヒューマニズム（人文主義）とは人間本来の在り方をギリシア・ローマ時代の古典文化を通じて理解しようとする考え方で，ルネサンスの中心となる思考。
- P. 大航海時代以降，従来の地中海から大西洋・インド洋へ貿易の重心がシフトしたことを「商業革命」という。
- (1). エジプト新王国とシリアの支配をめぐり対立し，カデシュの戦いがあった。

- (2). 上記の空欄Gの解説文を参照。
- (3). 属州，とくにエジプトから多くの穀物がもたらされた。
- (4). アレクサンドロス大王が広めたコイネー（共通ギリシア語）を文化の基本とした東ローマ帝国では，7世紀には正式にギリシア語がラテン語に代わって公用語とされた。
- (5). コルドバは後ウマイヤ朝の都として西方イスラーム世界の中心をなした。トレドは商工業都市として栄えた。
- (6). 第4回十字軍はヴェネツィアが主導して，地中海貿易の商業上のライバルであるコンスタンティノープルを占領した。1204年から1261年までコンスタンティノープルにはラテン帝国が存在した。ジェノヴァの支援を得てこの地を回復したビザンツ帝国であったが，衰退を止めることはできず，1453年にオスマン帝国により滅ぼされた。
- (7). 肉食のヨーロッパにとって，香辛料（スパイス）は保存した肉の臭みを抜くには欠かせないものであった。またペストの流行期には疫病への特効薬と信じられたこともあった。

4章 キリスト教世界とイスラーム世界の接触

問題

解答

問1 a - 西ゴート b - フランク c - ウルバヌス2世 d - クレルモン
e - セルジューク f - レコンキスタ g - オスマン帝国

問2 ウマイヤ朝 問3 トゥール・ポワティエ間の戦い

問4 十字軍の失敗で教皇権は後退し、代わって王権が伸長した。十字軍遠征に参加した諸侯や騎士達が疲弊したことで、王権による中央集権化が進み、絶対王政を準備した。(76字)

問5 カステイリヤ王国・アラゴン王国

解説

問1. a. 西ゴート王国は、ゲルマン人の西ゴート人が黒海西岸からイベリア半島まで移動して建国した国家。

b. この当時のフランク王国はメロヴィング朝末期で、王家の力は弱く、宮宰が国を動かしていた。

c～e. セルジューク朝の拡大に苦しんだビザンツ皇帝アレクシオス1世は西欧世界に救援を要求した。これに教皇ウルバヌス2世が応えて、クレルモンで公会議(宗教会議)を開き、聖地解放のための援軍(十字軍)の実施が決められた。

f. レコンキスタ(国土回復運動・再征服運動)は8世紀から始まり、1492年にイベリア半島最後のイスラーム国家のナスル朝(グラナダ王国)を滅亡させるまでの約800年にわたり行われた。

g. 1299年に小アジア北西に建国されたオスマン帝国は、1922年まで存続した。

問2. シリア総督のムアーウィヤが7世紀半ばにダマスカスを都に建国したのがウマイヤ朝。ウマイヤ朝ではアラブ人優遇政策が採られ、征服者であるアラブ人は一切税を支払わなくてよかった。アラブ人以外の者がイスラーム教に改宗しても税(ジズヤとハラージュ)の支払いは免除されなかった。

問3. フランク王国軍を率いたのは宮宰カール=マルテルであった。

問4. 十字軍の文化・経済に及ぼした影響としては、イスラーム圏の学問との接触で西欧世界で12世紀ルネサンスが興ったこと、十字軍の輸送により北イタリア都市が発展して東方貿易を促進することとなり、ヨーロッパ内陸部での遠隔地商業も発達したことが挙げられる。

問5. カステイリヤは11世紀にイベリア半島中部に成立した。アラゴンは半島北東部に11世紀に成立した。カステイリヤから自立したポルトガルとともに、これら3国がレコンキスタを遂行し、1479年にはカステイリヤ・アラゴン両国が合併してスペイン王国が誕生した。

MEMO

5章 西洋古代文化～ルネサンス，イスラーム文化

問題

【1】

解答

- 1 (イ) 2 (イ)

解説

ヘレニズム時代の文化に関する簡単な問題。政治史と併せて，文化史も大枠は押さえておくようにしよう。

1. (ア). この「新しい文化」がヘレニズム文化とよばれる。クシャーナ朝下のガンダーラ美術の盛行については頻出なので覚えておくこと。

(イ). 単純な問題。ヘレニズム時代の年代的定義についてはよく確認しておくこと。ヘレニズム時代の時代下限は，前30年のローマによるプトレマイオス朝エジプトの征服である。

(ウ). 誤りはない。中国では，北魏の時代に建造された平城（後398年から494年まで北魏の都であった）の近郊の雲崗石窟寺院にガンダーラ美術の影響が見られる。

(エ). 誤りはない。コイナーはアッティカ方言がもとになっている。

2. (ア). ストア派の代表ゼノン，エピクロス派の代表エピクロス，ともに区別しておくこと。

(イ). ストア派，エピクロス派とも世界市民主義の思想に立脚している。よってこの記述は誤りとなる。

(ウ)・(エ). ヘレニズム期の自然科学者としては，地球の公転と自転，太陽中心説を唱えたアリストアルコス，浮体の原理を発見したアルキメデスの他に，幾何学者エウクレイデス（代表作『幾何学原本』），地球の周囲の長さを計測したエラトステネスらを覚えておきたい。

【2】

解答

- ① d ② b ③ b ④ c ⑤ a ⑥ d ⑦ b ⑧ d
⑨ c ⑩ d

解説

ローマの文化をまとめた問題。文化史は大学によってはかなり細かい内容まで問われる場合もあるので，政治・経済史のみ学習するのではなく，これらの動向を背景とした文化史の展開についてもしっかりと理解しておく必要がある。

①. 十二表法の性質から考えてみよう。

②. “万民法”とはローマ市民権を持たない外国人にも適用される法律をさすが，“市民法”とはその名の如くローマ市民権を持つ者のみに適用される法律のことである。さてこの設問の場合，「ローマの支配が拡大し，諸民族が帝国の統治下に置かれるとそれらの取り扱いをめぐっ

て (②) の思想が発達した」とあるので万民法が適当となる。

③. 6世紀前半、ビザンツ皇帝ユスティニアヌスの命により、トリボニアヌスらがローマ法を集大成して『ローマ法大全』を編纂した。これはユスティニアヌスの業績の中でも覚えておきたいことの1つである。

④. 「ローマ屈指の雄弁家として修辞にもすぐれ、ラテン散文の範とされる多くの著作を残した」とあるからキケロが正解。

⑤. まずアナクレオンとピンダロスは古代ローマではなく古代ギリシアの詩人なので消去できる。また問題文中の「『アエネイス』の作品で知られる詩人」とはウェルギリウスのことなので、残るはホラティウスとなる。

⑥. 「批判的な目でもって帝政初期の歴史を叙述」したのはタキトゥスの『年代記』である。タキトゥスは『ゲルマニア』の著者として問われることが多いが、こちらの業績についても把握しておこう。

⑦. 「伝記の著作」でしかも「ギリシアとローマの歴史に関する重要な史料」ときたからには『対比列伝 (英雄伝)』のプルタルコスとすぐ分かる。この作品は、タイトルからも分かるようにギリシアとローマの英雄を対比して描いたものである。

⑧. アップピア街道は前312年に財務官アッピウスが私財を投じて建設した街道である。ローマを起点にカプアまで敷設されたが、のちにタレントゥム (タラント) を経て南イタリアの先端に位置するブルンディシウムにまで延長された。歴史地図で確認しておこう。

⑨. これは難しい。パンテオンとは古代ギリシア・ローマの諸神を祀る場所で、前27年にアグリッパが建てたものを、ハドリアヌスが後120～124年頃に再建している。のちの7世紀以降にはキリスト教会として使われるようになった。

⑩. これも難問。古代ローマの水道橋は最上部に水道溝が、下部には道路が作られた。

【3】

解答

A 2 B 3 C 1 D 1 E 3 F 2 G 3 H 0
I 1

解説

イスラーム文化に関する問題。基本的事項からの出題が多く、間違えたところはしっかりと復習しておくこと。

A. 1では「ギリシア語文献が直接多くの学者に読まれる」という部分が誤り。9世紀初めにギリシア語文献が組織的にアラビア語に翻訳されはじめ、多くの学者に影響を与えたが、原典が直接大勢の人に読まれたわけではない。2に誤りはない。

B. イブン＝シーナーは哲学の大百科事典といえる『治癒の書』を著し、アリストテレスの哲学を基礎に、ギリシア哲学とイスラーム神学の融合をはかっているので、1は正しい。彼はアラビア医学を体系付けた『医学典範』でも名高い。両書とも13世紀ごろからラテン語に翻訳され、中世ヨーロッパのスコラ哲学や医学に大きな影響を与えた。2の判定がやや難。「医学者のイブン＝ルシュド」とあるので誤りか、と思いがちだが、大哲学者である彼は、その晩

年にはモロッコのムワッヒド朝スルタンの侍医となっているので、間違いとはいえない。注意しよう。もっとも、普通の出題方法では、イブン＝シーナーが医学者、イブン＝ルシュドが哲学者として問われることが多い。

C. イブン＝ハルドゥーンに関する1に誤りはない。ガザーリーはアリストテレス哲学やスーフイズムを研究し、知性を超越した信仰の絶対を説いて、スーフイー信仰をイスラーム神学の中に位置付けたイスラーム最大の神学者である。よって2の記述は誤りとなる。

D. ウマル＝ハイヤーム（オマル＝ハイヤーム）の名著『ルバイヤート』は様々な言語に翻訳されて愛唱されているので、1は正しい。2については、「イル＝ハン国の～『集史』」までは正しいのだが、ペルシア語で書かれた『集史』は、第1部でモンゴル帝国の拡大の歴史を、第2部で人類の歴史を当時の世界の主要な地域・種族ごとにまとめた「世界史」を記した書物なので、単にイスラームの通史とはいえない。

E. どちらも正しい。アズハル大学（アズハル学院）について補足すると、ファーティマ朝時代にはシーア派の学府であったアズハル大学は、1171年のサラディンの攻略により破壊されたが、のちにスンナ派の学府として再建され、イスラーム法学・神学の中心地として栄えた。

F. イスラームの大旅行家イブン＝バットゥータはモロッコのタンジールに生まれ、エジプト、アラビア、イラン、インド、中国と世界各地を旅して『三大陸周遊記』を著したが、彼は1304年に生まれて68年（69年・77年の説あり）に没している。一方、元の世祖フビライ＝ハンの治世は1260年から94年にかけてなので、両者の時代は合わない。よって1は誤りとなる。フビライ＝ハンの時代の中国を訪れ、その経験を書物に残しているのはヴェネツィア生まれのマルコ＝ポーロで、その本は『世界の記述』である。

G. どちらも正しい。イスラームの教義とアラベスクの関係をもう一度把握しておくこと。

H. アルハンブラ宮殿はイベリア半島最後のイスラーム王朝・ナスル朝が建てた建築物なので、1は誤りである。また、1453年のコンスタンティノーブル陥落によるビザンツ帝国滅亡以後、ハギア＝ソフィア大聖堂はモスクへと変えられたが、これはブルー＝モスクと呼ばれている。スレイマン＝モスクはその名の如くスレイマン1世が建てたモスクであり、2も誤りである。

I. 1に関する記述は正しいが、2の「ヒンドゥー教徒～」以後の説明はシャー＝ジャハーンの次の皇帝、アウラングゼーブに関するものなので、2は誤りとなる。

【4】

解答

1 ウ 2 ア 3 イ 4 オ 5 イ

(イ) コルドバ (ロ) スコラ (ハ) アズハル学院 (ニ) イブン＝ルシュド

解説

イスラームの文化について、とくに西方および東方との関連から問うている問題。基本的な事項が多く、正誤判定もきちんと問題文を読み込んでいけば難なく解けるものばかりである。

1. ウ. イスラーム教では「偶像崇拝が禁じられていた」からこそ、「人物像」ではなく植物をデフォルメし、唐草文様、幾何学文様、アラビア文字の植物文様化などに見られるアラバ

スクが発達したのである。

2. 元代の郭守敬は、イスラーム暦（太陰暦）をもとに授時暦を作成し、それは江戸時代の日本の貞享暦に影響を与えた。

3. やや難。アリストテレス（前 384～前 322）は、イデア論を提唱したプラトン（前 427～前 347）の学校アカデメイアで師が亡くなるまで研究を続けた。そのプラトンの代表的な著作が『国家論』である。

4. とくに誤りはない。「光は東方から」といわれるように、中世ヨーロッパよりもイスラーム地域やさらに東方の中国の方が、文化水準から見ればはるかに高レベルであった。ヨーロッパ文明の古典古代、すなわち古代ギリシア・ヘレニズム・ローマの遺産は、ビザンツ帝国もしくはイスラーム地域で保存され、研究・継承されていた。中世ヨーロッパにおけるイスラームとの接点であるイベリア半島やシチリア島で、西欧古典古代の研究がイスラーム地域から逆輸入され、当時のヨーロッパの学術共通語であるラテン語への翻訳事業が行われる 12 世紀ルネサンスが進展するのも、そのような理由においてである。

5. 「婢^{はしため}」とは召使の意である。「神学が最高の学問であった」からこそ、哲学は神学よりも下層に位置するという意味合いから、「哲学は神学の婢」と呼ばれたのである。

(イ). 基本的事項。ファーティマ朝の首都カイロ、アッバース朝の首都バグダードに対抗した、イベリア半島の後ウマイヤ朝の首都はコルドバである。

(ロ). これも基本的事項。トマス＝アクィナスが大成したスコラ哲学が正解。神や普遍という概念をめぐる唯名論と实在論の論争である普遍論争を中和させた。トマス＝アクィナスの主著『神学大全』は必ず覚えておくこと。

(ハ). 909 年にチュニジアで興ったファーティマ朝は、969 年にエジプトを征服してカイロを建設、後に首都とした。ファーティマ朝の国教はシーア派で、970 年にシーア派の学府としてカイロにアズハル学院（大学）を建設したが、この大学は現存するイスラーム最古の最高学府とされている。1171 年にサラディンの攻略によって破壊されたが、後にマムルーク朝のもとスンナ派の学府として再建された。

(ニ). 中世ヨーロッパに大きな影響を与えたイスラームの文化人としては、東方イスラーム世界の哲学の第一人者イブン＝シーナー（ラテン名アヴィケンナ・主著『医学典範』）と、イベリア半島におけるイスラーム哲学の代表者イブン＝ルシュド（ラテン名アヴェロエス・アリストテレス哲学の注釈）を必ず押さえておきたい。両者を混同しないように注意すること。



会員番号	
------	--

氏名	
----	--